

— 人文・社会科学の視点を兼ね備えたデータサイエンティスト育成を目指す— **武蔵学園データサイエンス研究所 設立のお知らせ**

武蔵大学、武蔵高等学校、武蔵中学校を構成する学校法人根津育英会武蔵学園（東京都練馬区／理事長 根津公一）は、近年、日々大量のデータが企業や行政などの組織に蓄積されるビッグデータ時代に入っていることを鑑み、2017年7月に「武蔵学園データサイエンス研究所」を設立しました。2017年4月には、武蔵大学社会学部でグローバル・データサイエンスコースがスタートし、本研究所も今後、本格的に始動していきます。

本研究所は、社会科学・人文科学の視点を含むデータサイエンス研究の推進を目的とし、研究、教育方法の開発及び社会への啓発活動を実施します。

武蔵学園データサイエンス研究所

■ 主な事業内容

■データ分析を行う企業・団体等と大学、中学・高校の教育を結びつける連携事業。 ■研究シンポジウムや講演会、セミナー開催などの研究事業。 ■実務専門家と学園の教育を結びつける連携事業。

※平成30（2018）年春、記念式典開催予定

グローバル・データサイエンスコースとは？

■ ビッグデータから社会現象を読み解き、イノベーションを起こす力を養う

2017年4月に社会学部に新設された「グローバル・データサイエンスコース」は、新しい時代の共通語である「データ」と「英語」をしっかり身に付け、社会と結び付けて分析できる人材を育成する4年間のコースです。1年次は海外英語研修などで英語力を身に付け、2年次ではデータを分析する力を磨きます。培ったスキルを3年次以降は総合的に使える能力として精度を高め、卒業後は、データ分析を必要とされる企業や政府組織など、創造性の高い職種での活躍が期待されます。



↑ 社会学部のゼミで行われているデータ分析の様子

■ 想定される卒業後の進路

GDSコース卒業者の進路としては、グローバル化する社会への対応が必要な企業、政府組織、非営利組織などが考えられます。

■グローバル化に直接かかわる企業 ■商社・金融・証券・保険業 ■一般国内企業の海外進出部門 ■外資系企業の国内スタッフ ■国内中小企業のグローバル対応人材 ■教育機関のグローバル対応人材（国際センター、留学関連部門等） ■国内観光産業 ■広告代理店 ■自治体職員 ■まちづくり系企業 ■コンサルタント（都市計画、人材育成） ■NPO職員 ■国際機関職員 ■社会起業家 など

【News Release】
報道関係者各位

2017年11月13日

■根津育英会武蔵学園（武蔵大学／武蔵高等学校／武蔵中学校） [アクセス：西武池袋線「江古田駅」から徒歩6分]

【建学の三理想】 1.東西文化融合のわが民族理想を遂行し得べき人物 2.世界に雄飛するにたえる人物 3.自ら調べ自ら考える力ある人物
東武鉄道や東京地下鉄道（現東京メトロ）など多くの鉄道事業に携わり、財界で活躍した根津嘉一郎（初代、1860～1940）が、1922（大正11）年にわが国初の七年制高等学校である旧制武蔵高等学校を創設。旧制武蔵高等学校は「人間形成を根幹に、明日の新しい日本を担う、優れた人材を育てる」という理想を掲げ、その後の学制改革にともない1948（昭和23）年に新制武蔵高等学校、1949（昭和24）年に武蔵中学校、武蔵大学となりました。創立から90年以上を経た現在、激しく揺れ動く社会環境の中において、創設時に掲げた「建学の三理想」は、今なお色褪せない価値をもち続けています。